

都城市子ども・子育て会議

第5回

平成26年5月26日

13:00~15:00

都城市役所南別館3階第2会議室

次 第

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 子ども・子育て会議委員の変更について
- 4 議事
 - (1) 経過報告
 - ①これまでの経緯
 - ②第4回都城市子ども・子育て会議概要
 - (2) ニーズ調査の結果報告
 - (2) 関係団体等へのグループヒアリングについて
 - (3) 教育・保育の需要量について
 - (5) 今後のスケジュール
- 5 事務連絡
- 6 閉会

都城市子ども・子育て会議委員名簿

区分	団体名	役職	氏名
学識経験者	南九州大学人間発達学部・子ども教育学科	教授	黒川 ^{ヒサミ} 久美
施設運営管理者等	都城市社会福祉法人法人立保育園園長会	会長	藤田 雄三
	都城地区私立幼稚園連合会	会長	下野 喜久夫
	宮崎県児童館連絡協議会	事務局長	江田 かおり
	都城市児童クラブ連絡協議会	会長	小林 ^{ウチト} 内外
	社会福祉法人 光生会ひかり園	園長	豊留 かく子
学校関係者	都城市小中学校校長会代表者	五十市小学校校長	中吉 真理哉
	都城市 PTA 連絡協議会	副会長 (有水小 PTA 副会長)	坂元 春香
行政機関	都城公共職業安定所	所長	児玉 太
	都城児童相談所	所長	大久保 公博
地域関係	都城市自治公民館連絡協議会	理事	永田 優
	都城市民生委員・児童委員協議会	会計	和田 三千夫
市民関係	NPO 法人さらだ	理事長	那須 史代
	公募市民		外山 明美
	公募市民		久場 美和

事務局

所属	職名	氏名
福祉部	部長	前原 修
保育課	課長	青木 眞州男
保育課	副課長	黒木 千晶
保育課	主幹	満安 真由美
保育課	副主幹	飯盛 香奈子
保育課	副主幹	清水 かな子
保育課	主査	大中原 和己

1 経過報告

(1) これまでの経緯

(1) 第1回子ども・子育て会議

- ① 日程：8月2日
- ② 議事：市長挨拶・選任通知書の交付・委員紹介・役員選出・審議
審議内容：子ども・子育て支援新制度について・子ども・子育て会議について（目的・構成・進め方）・子ども・子育て支援新制度のためのニーズ調査について・今後のスケジュール

(2) 第2回子ども・子育て会議

- ① 日程：9月30日
- ② 審議内容：第1回都城市子ども・子育て会議概要及び経過報告、子ども・子育て支援新制度のためのニーズ調査について（調査票の確認）、子ども・子育て支援環境に関する現状報告、今後のスケジュール

(3) ニーズ把握のためのアンケート調査実施

- ① 時期 10月～12月
 - ② 回収率
- | | | |
|-------|-------------|-------|
| 就学前児童 | 886/2,000 | 44.3% |
| 小学生 | 1,461/2,000 | 73.1% |
| 合計 | 2,347/4,000 | 58.7% |

(4) 第3回子ども・子育て会議

- ① 日程：1月28日
- ② 審議内容：子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査の速報値について、関係団体等へのヒアリングについて、今後のスケジュール

(5) 第4回子ども・子育て会議

- ① 日程：3月27日
- ② 審議内容：関係団体等へのグループヒアリングについて、教育・保育の需要量について（速報値）、事業計画の策定方針について、今後のスケジュール

(6) 子ども・子育て支援法に基づく教育・保育需要量について

- ① 国が示したワークシートの提出（2月下旬）
- ② 県との法定協議（3月17日）

(2) 第4回子ども・子育て会議概要

- ① 日時：3月27日 15:00～17:00
- ② 会場：都城市役所4階秘書広報課前会議室
- ③ 審議内容：第3回都城市子ども・子育て会議概要及び経過報告、関係団体へのグループヒアリングについて、教育・保育の需要量について（速報値）、事業計画の策定方針について、今後のスケジュール
- ④ 出席者 委員15名中3名欠席
中吉真理哉氏、瀬ノ口敬子氏、安田真里氏
- ⑤ 主な質疑応答

【子育て支援について】

- ・子育て支援団体のネットワーク事業はされていないのか？宮崎市では、県か市の事業でNPOの支援を行っているようである。
➢事業としては実施していないが、既に連携を図れているところもある。団体の活動はコミュニティ課が把握している。
- ・子育て支援について、市として核となる考え方は？
➢子育て支援センターは育児ノイローゼの解消のため、国が示した補助対象を実施している。休止保育所を活用しているため、古い、狭い等の問題があり、現在大丸跡地において子育て支援センターの建設を検討中。
- ・子育て支援について、20年前、法人立保育園で大丸の中で相談業務を行い、イベントでは500人が集まっていた。大丸跡地も皆が来れるような施設になればよい。
- ・児童館の周知が足りない。市の広報等の紙面に限りがあるとのことだが、子育て専用のページがあるとよいのではないか。子どもが生まれた時に窓口でもらう情報に児童館が含まれていない。
- ・山形ではNPOが子育て支援の情報誌を発行していた。情報発信は必要である。
- ・現在の子育て支援施策は本当に困っている人の支援になっていない。

【教育・保育の需要量について】

- ・家族類型のデータについて、家庭で孤立して煮詰まっているお母さんたちへの支援をする必要がある。
➢需要量について、事業の中身が判らないのに利用意向に○をつけている場合もあるので、実態と比較する必要がある。

【計画体系について】

- ・中学生までを対象とした理由は？児童福祉法では18歳までを児童としている。高校生も悩んでいる氏、児童館は18歳までを対象としている。
➢計画体系はイメージとしてお示ししているので、具体的な事業は今から検討する。高校生について、現在は、市の事業として実施していない。
- ・結婚について出会いの場の提供は他の自治体で実施しており、少子化対策として

は取り組むべきである。

- ・ライフステージ毎の計画という考え方は重要と思うが、世代間の繋がりが重要である。

- 国、県、市の事業の整理やニーズ調査の分析結果を会議でお示ししたい。

- ・療育については保健分野との連携が必要。

- ・子ども・子育て会議の取組みは周知されていないので公表しないのか？

- ・成長を考える中で、ライフステージ毎の取組みはありがたい。市独自の取組みに期待する。

- 子ども・子育て会議の情報は、ホームページで公表したい。

2 関係団体等へのグループヒアリングについて

アンケート調査で把握しきれない定性的な子ども・子育てニーズ等を把握するため、子育て関係団体等を対象にグループヒアリングを実施。

(1) 調査方法：予め、調査シートを送付し、集約し、グループ毎に意見を伺う。

(2) ヒアリング対象団体

区分	団体名
子育て支援団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO 法人こじいの森・こどもの時間（とき） ・ NPO 法人次世代育成応援団 やっど ・ NPO 法人子育て応援団ひいらぎ ・ NPO 法人ハロー・ユース・JAPAN ・ NPO 法人都城子ども育成クラブ ・ NPO 法人子育てネット おひさまとはらっぱ ・ NPO 法人F Style ・ NPO 法人さらだ ・ NPO 法人ライフサポート和っはっは ・ NPO 法人子育て応援団エンゼルランプ ・ 子育て応援団あおぞら ・ みやこのじょう子ども劇場 ・ みんなのおうち ・ おもちゃ病院みやこんじょ
児童発達支援事業関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉法人光生会ひかり園 ・ 社会福祉法人アイリス向陽会（都北学園） ・ NPO 法人さらだ ・ 宮崎県社会福祉事業団（高千穂学園）
中山間地域関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A 代表（西岳、中郷、各総合支所より）

(3) 実施状況

区分	実施状況
子育て支援団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前アンケート実施後にグループヒアリング実施(2月28日) ※第4回会議で報告済
児童発達支援事業関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前アンケート実施後に児童発達支援事業の利用者への聞き取りを実施（3～5月）
中山間地域関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前アンケート実施後にグループヒアリングを実施（5月13日）

◎中山間地域PTAグループヒアリング概要

- ① 日時：5月13日 19:00～20:30
- ② 会場：都城市役所南別館3階委員会室
- ③ 審議内容：PTA関係者アンケートについて
- ④ 出席者 7団体中4団体出席
- ⑤ 調査対象：西岳地区（西岳・御池小学校）、中郷地区（梅北小学校）、山之口地区（麓小学校）、高城地区（有水小学校）、山田地区（山田小学校）、高崎町（笛水小中学校）
- ⑤ 主な意見

区分	意見等
情報の周知方法について	<ul style="list-style-type: none"> ・新制度で施設の利用方法等が変わるようであるが、母親は知りたい情報は自分で調べるので、広報と利用している保育所等施設等にチラシを配布すれば十分ではないか。 ・保護者は保育所等に相談に行くと思うので、相談先で説明をすべきである。
保育の必要性の認定について	<ul style="list-style-type: none"> ・認定等の手続きが面倒臭いような気がする。わかりやすい資料が必要。 ・保護者は利用料金が知りたいのではないか？ ➢公定価格が示されてから提示することになる。
放課後児童クラブについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの人は6年生まで必要はないのではないか？
中山間地域ならではの課題	<ul style="list-style-type: none"> ・登下中の交通量が多い場所に信号をつけてほしいが、なかなか聞いてもらえない。保護者が立つ必要があり、負担がかかる。田舎ほど要望を聞いてもらえない。 ・西岳小は27人、20世帯で、複式学級である。御池は1年と4年、5年と6年の複式学級である。中学校は4小学校が一緒になるが、全校生徒で30人切る状況で、高校に行くと30人学級になるので、物怖じして高校を退学してしまう場合もある。小さい学校の生徒は仲が良いが、高校に行った時の事を考えて町の方に移転してしまう。畜産業等の仕事の関係で地域を離れられない人だけが残ってしまう。 ・中山間地域は子どもが少なくなっている。便利さだけを追求し、町中に集中している。豊かな自然環境なのに外遊びを禁止するのはおかしい。外遊びを奨励してほしい。地域の良さを生かし切れていない。 ・大きい学校と中山間地域との交流をすれば、自然の豊かさ

	<p>のPRと中山間地域の子どもの大人数への対応にも役立つのではないか？</p>
<p>病児保育について</p>	<p>・パートの職員で保育料は月4万円程度払っているのに、子どもの病気で3分の1程度休まなければならない同僚がいる。熱が37.5度になれば呼び出しが来て、母親は大変である。微熱程度であれば、保育園に隣接した病児保育用の隔離施設でみてもらいたい。</p> <p>➤市内に病児保育の施設が無い事は承知しており、働きやすい環境づくりとともに課題だと考えている。</p>

PTA関係者を対象としたアンケート調査結果

問2 子育て環境

No.	カテゴリー名	n	%
1	放課後児童クラブ等放課後に安心して過ごせる場所がない。	2	13.3
2	休日に安心して遊べる場所がない	2	13.3
3	勤務先から遠いため、病気の際にすぐに迎えに行けない。	1	6.7
4	保育所が遠いため、送迎に時間がかかる。	2	13.3
5	通学路に人家が少なく、登下校が心配である。	6	40.0
6	保護者の急用等の際、子ども（未就学児、小学生）を一時的に預ける場所がない。	2	13.3
その他	地域に保育所・保育園がない	0	0.0
	無回答		0.0
	全体	15	100.0

問2-2 2-1の課題に対してPTAとして対応していますか？

No.	カテゴリー名	n	%
1	対応している。	5	83.3
2	対応していない。	1	16.7
	無回答	0	0.0
	全体	6	100.0

問2-3 2-2の具体的な活動内容に○をつけてください。

No.	カテゴリー名	n	%
1	登下校時の見守り活動	4	50.0
2	放課後の居場所づくり	3	37.5
3	学校安心メールの活用	1	12.5
	全体	8	100.0

問2-4 2-3の活動において、どのようなことが課題となっていますか。

- ・ 毎日の活動にはなっておらず、又、見守り活動も低学年から高学年の下校時間に幅があり、なかなか難しい課題です。PTAだけでは対応しきれないところもあります。
- ・ 毎日実施するためには、保護者への負担となるために1日おきに変更した。車で巡回するが、ルート全部を回ることが無理。
- ・ 保護者（家族、祖父母）の負担がある。
- ・ 近くに放課後児童クラブが無い。
- ・ 放課後の居場所作りについては、現在PTA(有水おもてなし隊)で検討中であるが、公民館との連携が欠かせないため、課題も多い。

問2-5 子育て支援活動の取り組みに関して、公民館等他団体と連携していますか。あてはまる番号に○をつけてください。

No.	カテゴリー名	n	%
1	連携している。	4	80.0
2	現在は連携していないが、今後は連携したいと思う	1	20.0
3	今後とも連携したいとは思わない	0	0.0
	全体	5	100.0

問2-6 どのような団体と連携していますか、又は連携したいですか。
 具体的な団体名・連携理由についてご記入ください。

- ・協力してもらえらるならどこでもよいです。
- ・地域住民の方々やボランティアの方々が個人的に活動している。
- ・青少年育成協議会
- ・笛水地区公民館、笛水活性化委員会
- ・各公民館、見守り隊
- ・地区のボランティアの方々に学校のもちつき大会の際、お手伝いをもたらったりぜんざいのふるまいを行っていただいている。
- ・学校の田植え～稲刈りまで作業指導から通常の水管理等をおこなってもらっている。
- ・地区公民館と合同で運動会を開催している。

問3 都城市の子育て支援施策について感じていること。

No.	カテゴリー名	n	%
1	満足している	1	25.0
2	ほぼ満足している	3	75.0
3	やや不満である	0	0.0
4	不満である	4	100.0

問3-2 問3の理由。市へ改善してほしい事項

- ・子育て支援施策を理解できていない。
- ・当地区に対する計画性が見えない。
- ・都城のセールスポイントは、霧島山を望む豊かな自然であると思います。その自然を最大限に生かした子育てをすることが、この盆地に住む親、大人の使命であると考えています。
- ・中山間地域に住む私たちは、都会になくて、都城に有るものを最も身近に感じながら生活できる環境にいます。この恵まれた環境を、次世代につなぐために、市の積極的な情報発信・応援をお願いしたいです。

問3-3 市から支援してほしい子育て支援活動の取組み

No.	カテゴリー名	n	%
1	ある。	2	40.0
2	ない。	3	60.0
		0	0.0
		5	100.0

問3-4 市へ支援してほしいこと

- ・保育園へのバス送迎をすぐやってほしい。
- ・屋外での子どもの遊び場作りを支援してほしい（裸足で遊べるような環境づくり）

自由記載

- ・子育て施策とは少しかけ離れますが、小学校にも有名なミュージカル（キャッツ）とか有名な塾の先生が来校と不便なところの子どもにも色々な物を見せてあげたいです。
- ・地域に保育園が無く子育て世代が街の方へ移住してしまう。
- ・人間力あふれる子どもを育てることが、市長の目標ですが、学校で外遊びを禁じられ、ゲーム等のメディアづけの日々を送り続けるしかない、現在の子育て環境の中でなかなか光明を見出せないのが今の有水地区の現状です。市には、そのネットワーク力を生かして、他市の事例等を分析し公開し、親世代を刺激して、市民の力をいい方向に導く真剣な議論を求めたいと思います。よろしくお願ひします。

[PTA関係者アンケート]

問1 小学校名

--

I. 回答者	
記入者名	
連絡先	TEL : FAX : E-mail :

問2 貴団体の小学校区域にける子育て環境について

2-1 貴団体の地域の子育て環境に課題がありますが。あれはまる番号に○をつけてください。(複数回答可)

1. 放課後児童クラブ等放課後に安心して過ごせる場所がない。
2. 休日に安心して遊べる場所がない。
3. 勤務先から遠いため、病気の際にすぐに迎えに行けない。
4. 保育所が遠いため、送迎に時間がかかる。
5. 通学路に人家が少なく、登下校が心配である。
6. 保護者の急用等の際、子ども(未就学児、小学生)を一時的に預ける場所がない。
7. その他

--	--

2-2 2-1の課題に対してPTAとして対応していますか？

1. 対応している。 ⇒ 2-3へ進んでください。
2. 対応していない。 ⇒ 2-5へ進んでください。

2-3 2-2の具体的な活動内容に○をつけてください。

1. 登下校時の見守り活動
2. 放課後の居場所づくり
3. 学校安心メールの活用
4. その他

[]

2-4 2-3の活動において、どのようなことが課題となっていますか。

[]

2-5 子育て支援活動の取り組みに関して、公民館等他団体と連携していますか。
あてはまる番号に○をつけてください。

1. 連携している ⇒ 2-6へ進んでください。
2. 現在は連携していないが、今後は連携したいと思う ⇒ 2-6へ進んでください。
3. 今後とも連携したいとは思わない ⇒ 2-7へ進んでください。

2-6 どのような団体と連携していますか、又は連携したいですか。具体的な団体名・連携理由についてご記入ください。

[]

問3へ

2-7 「今後とも連携したいとは思わない」のはなぜですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 自分の団体だけで十分な活動が行えるから
2. 他団体とうまく連携を取れるかどうか不安だから
3. 同じ考え、方向性を持った団体がない（又は知らない）から
4. その他（具体的に： _____)

問3 都城市の子育て支援に関する取り組みに関して

3-1 都城市の子育て支援施策（子育て・発達等各種相談業務、乳幼児健診、子育て支援センター等市が実施している施策及びその情報発信）にについて、どう感じていますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 満足している ⇒ 3-3へ進んでください。
2. ほぼ満足している ⇒ 3-3へ進んでください。
3. やや不満である ⇒ 3-2へ進んでください。
4. 不満である ⇒ 3-2へ進んでください。

3-2 それはなぜですか。また市にどのようなことを改善してほしいですか。具体的にご記入ください。

3-3 子育て支援活動の取り組みにおいて、市から支援してほしいことがありますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. ある ⇒ 3-4へ進んでください。
2. ない

3-4 支援してほしいことはどのようなことですか。具体的にご記入ください。

◎最期に、市の子育て支援施策に関してご意見がありましたら、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

児童発達支援事業関係者アンケート結果概要

問2 貴団体の活動状況

団体名	児童発達支援事業	放課後デイサービス	職員
NPO法人 さらだ	・児童発達支援事業、保育所等訪問支援事業：定員10名（放課後等デイサービスと併せて）、1日の利用人数1名、障害の種類：未受診、併行通園児：1名	・放課後デイサービス：13名、7～12歳利用、待機児童8名	保育士1名、指導員（心理士）2名、指導員（事務兼任）1名、作業療法士1名、介護福祉士1名 合計6名
都城子ども療育センターひかり園	・児童発達支援センター 対象年齢0歳～就学前（療育の観点から集団療育及び個別療育を行う必要があると認められる未就学の子ども（障害児）。ひかり園の場合、家族支援の大事さから親子通園を基本としている。 1日利用定員20名 登録（契約）人数85名。障害の種類 診断なし30名、発達障害26名、染色体異常18名、肢体不自由5名、視覚障害3名、てんかん3名 85名中51名併行 ・保育所等訪問支援 児童が集団生活を営む施設に通う障がい児（こども）であって、施設を訪問し、専門的な支援が必要と認められた障がい児（こども）。ひかり園の場合直接、間接の支援及び保護者支援実施	・0人（重症心身障害児対象で満杯）、待機児童0人	・職員形態 児童発達支援管理責任者2名、保育士6名、児童指導員1人、言語聴覚士2名、看護師2名、管理栄養士1名、相談支援専門員2名、支援員2名 合計20人
都北学園	対象年齢（1歳～6歳） 成長や発達が気になる未就学の子供の早期療育の場として成長発達を促すための療育を行う。また、地域における子ども達の発達を促すための療育を行う。	きりしま支援学校の在籍児童の放課後及び中長期休暇の支援、1日20名。待機児童5～6人	園長1名、事務長他2名、児童指導員2名、保育士18名、栄養士2名、看護師1名、運転手1名、セラピスト2名、支援員2名 合計32名

問3 貴団体の課題

No.	カテゴリー名	n	%
1	障がいの特性に応じた対応	2	16.7
2	職員の知識・経験	2	16.7
3	職員の人数・職種	3	25.0
4	スペース	3	25.0
5	本人・保護者との関係構築	0	0.0
6	学校・保育所・幼稚園・保健師等との関係構築	0	0.0
7	運営費	1	8.3
8	利用の仕組み・利用料の問題	1	8.3
9	その他		
	全体	12	100.0

問3-2 課題解決のために必要な事

No.	カテゴリー名	n	%
1	研修等による人材育成	2	18.2
2	行政も交えた関係諸機関との発達支援システム・ネットワーク作り（そのための定期的な会議の開催）	3	27.3
3	相談支援も含め、利用の仕組みを利用者の立場に立って改善する	2	18.2
4	予算の増加	3	27.3
5	その他 学校区ごとに療育の場の確保	1	9.1
	全体	11	100.0

問3-3 他団体と連携しているか

No.	カテゴリー名	n	%
1	連携している	3	75.0
2	現在は連携していないが、今後は連携したいと思う	1	25.0
3	今後とも連携したいとは思わない		
	全体	4	

問3-4 どのような団体と連携していますか、又は連携したいですか。具体的な団体名・連携理由について

<ul style="list-style-type: none"> ・学校、保育園、幼稚園と療育についての連携 ・相談支援事業所とサービス利用について保護者支援等についての連携 ・南九州大やNPO法人ごんだの会と活動の協力連携 ・なのはな村で外食体験 ・児童発達支援関連施設⇒情報共有 ・都城市こども発達支援センターきらきら⇒相談・診断 ・行政機関⇒子育て支援、会議等、就学相談

問3-8 「今後とも連携したいとは思わない」理由

No.	カテゴリー名	n	%
1	自分の団体だけで十分な活動が行えるから		
2	他団体とうまく連携を取れるかどうか不安だから		
3	同じ考え、方向性を持った団体がない（又は知らない）から	1	100.0
	全体	1	100.0

問4 都城市の子育て支援施策について感じていること。

No.	カテゴリー名	n	%
1	満足している		
2	ほぼ満足している	2	66.7
3	やや不満である	1	33.3
4	不満である		
	合計	3	100.0

問4-2 問4の理由。市へ改善してほしい事項

<ul style="list-style-type: none"> ・（市の問題というわけではなく）、健診等で気になったり、キッズランド等で気になっていても対応出来ないまま小学校に上がってしまうことがある。いつもどうしている過渡期なつてします。保健師さんを中心とした巡回チームがいたら保護者の方により添えて子ども達の苦しさを救えるのではないか。 ・健診終了後の木になる児についての聞き取り、情報交換等を積極的に行ってほしい。

問4-3 市から支援してほしい子育て支援活動の取組み

No.	カテゴリー名	n	%
1	ある。	3	100.0
2	ない。		
	無回答		
	合計	3	100.0

問4-4 市へ支援してほしいこと

- ・気づきの時点での発達相談から、療育につながるまでのシステム（年齢や時期に応じた）が判りにくい（相談場所はたくさんあるのに）と思います。
- ・健診や診断機関に相談支援が入ると、支援の流れがスムーズになるとと思います。
- ・事業所の実態を知っていただいたうえで、事業所の問題で片付けるのではなく、市の子ども達の問題として一緒に、又は率先して考えて頂きたい。
- ・市の空いている建物等についての情報・相談にのっていただきたい。
- ・子育て支援センターが抱えている児（育てにくさや育ちにくさがある）についての情報等を教えて頂ければと思う。

自由記載

- ・学校の先生の数を増やしてほしい
特別支援学級の先生の負担が大きい。年金も必要な支援も様々なのにとても丁寧に対応できないのではないかと。ことに幼児期の就学相談で支援学級をせっかく選んでも必要な支援をもらえないことがある。教師の質のこともあるだろうが、もう少し対応できる職員配置について考えていけないか。
- ・放課後児童クラブでの「気になるお子さん」への対応について人の配置
- ・保育園、幼稚園への加配
- ・全ての子ども達の健やかな成長と保護者が安心して子育てできるように今まで以上に関係機関が協力し合って連携強化を図っていただければよいのではないかと。

児童発達支援事業利用者ヒアリング概要

1 訪問先 都北学園、ひかり園、NPO法人さらだ（利用者合計7名）

2 訪問月 3～5月

3 ヒアリング結果

【要望・意見等のまとめ】

- ・情報が少ない
- ・健診の改善（小児科医の態度、雰囲気、悩んでいる人への対応）
- ・人権、障害者等への思いやりの啓発
- ・予算の優先順位の配慮
- ・窓口の接遇（母子家庭や障害児家庭への思いやり）
- ・特別支援学校の建設又は改修（定員の増加）
- ・障害のある子ども及びその兄弟の一時預かりサービスの提供
- ・発達障害児に対する理解度の向上
- ・多胎児の保護者の負担軽減
- ・保育所や放課後児童クラブにおける発達障害児の受け入れ
- ・障害児に対する補助事業の弾力的運用（年齢の引き下げ）
- ・療育施設の利用料金の無償化又は併行通園の際の利用料金の軽減
- ・こども発達支援センターきらきらの相談・診断内容の学校への伝達
- ・異年齢児を遊ばせられる公園等の整備

【個別意見等】

・健診（ことばの先生）⇒きらきら⇒都北学園と紹介されたため、情報を知った。保育所と並行通園している。健診の橋口先生は、「3歳にもなって、すわれない、しゃべれないのはおかしいと思わない？お母さん？」と心ない事を言われた。上の子と比較して何となくおかしいとは思っていたが、障害などを見つけるための健診なのに、そういう先生は辞めさせてもらいたい。見た目が一見普通なので、おばさん（健診のお手伝いの方？）が、じっとすることができないのに、「じっとさせて」といわれることもあった。健診の場所はすし詰め状態なので、発達に悩んでいる親は別の部屋に行けるような体制をとれないか？健常者と同じようにするのは無理である。発達に悩んでいる親は人前に行きたくない。健診は人が多すぎて行きづらい。自分から出向かなければ相談するところが判らないという状態なので、困っている人は多いと思う。世間の人には障害者に冷たい。一人ひとりはやさしいが、集団になると差別したりする。こども課と保育課は対応が冷たい。母子家庭になった時に相談に行ったが、フルタイムで働いていたため、保育料を払い、児童扶養手当も半減だった。遊んでいる母子家庭は保育料がただで、児童扶養手当も全額もらっている。不公平なのに、淡々と説明された。再婚したら、子どもに障害があった。今では子どもの障害を受け止めて、前向きに頑張っているが・・・。

特別支援学校に相談に行ったら、先生が、入学希望者が増えており、施設も古いので、もうすぐ定員がいっぱいになる。もう1か所増えてくれればよいのですが・・・と言われた。市からも要望してほしい。特別支援学校は義務教育なので、障害児の行き場がなくなったらどうなるのか？道路工事や生活保護より力を入れてほしい。

・5か月の時から保育園で特別保育を受けていた。先生をつけてもらい、丁寧にしていただいたが、指をさしてからかう子ども達もいる。健診で心ない事を言われたので、2度といくつもりはない。市役所の健診に行けないので、小児科の健診に行っているが、障害を認めるまでに小児科をたらいまわされた。忙しいのはわかるが、子どもを触ってもらえなかった。畠中先生は初めて子どもを触って診てくれた。障害を受け入れるのに時間がかかり、上の子も心配である（2歳差で下の子が障害）。悩んでいる人はたくさんいると思う。見た目が普通なので、余計にじろじろ見られ、大きい赤ちゃんと思われている。障害者手帳の切り替え時に、おむつ代がただになる制度があったことを知らされた。利用できる時期が過ぎてしまっていたので、情報は利用できるときに教えてほしい。障害児は、これから先もずっとお金がかかり、健常者のように働くことは難しい。昔に比べて療育施設や通所施設はあると思うが、欲しい人に情報が届くようにしてほしい。

・市役所の1歳半検診の時にひかり園の園長と出会って、翌日ひかり園に出向いた。小さいときから頻繁にひきつけをおこしてチャイルドシートに乗らない等、困っていたが、小児科の先生はわかってくれなかった。下の子は染色体異常で2カ月からひかり園に通っている。

・7か月の早産で未熟児訪問等の対応はしていただいた。3歳くらいまで憤怒けいれんを

おこし、成長とともに消えた。脳性まひとてんかんがあり、2歳になってもお座りが出来ないため、チャイルドシートに乗せられない。座位保持椅子の補助は3歳からしかないので、ケースバイケースで対応してもらいたい。座らせる道具が無いので、ご飯を食べさせたりすることも困難である。水頭症で脳にシャントバルブ装置（磁器）も入っているので、ぶつけないようにする必要があり、感染症にならないように注意も必要である。保育所等も遠まわしに断られ、毎日預けられる場所が無い。急な入院の時に、お兄ちゃんをみてもらうのも実家を頼るしかなく、親と子が息つく暇がない。上の子も下の子も預けられる場所が必要。

・1歳半の頃から支援センターでお友達をたたくななどの乱暴な行動が気にかかっていた。健診や支援センターでキッズランドを紹介された。今年の8月よりひかり園に通っている。見た目が普通なので、店などで暴れていると周りの人から「何故怒らないの？」という目で見られる。実家を頼っているが、祖父母もなかなか受け入れられずに、怒ってしまうので、子どもと祖母の間に入って説明しなければならない。夫が自衛隊で、今後転勤等もあるので不安である。

・1歳半検診で、他の子どもと比べて課題が出来ないということがわかり、初めて他の子どもと違うことがわかった。1歳8カ月からひかり園に通っている。きらきは1年くらい診断にかかった。言葉が出ず、細かいこだわりがあるので、こうしたいという気持ちが伝わらない。身内に精神的な病の人もいるので、頼る人がいない状況である。突然泣く、走っていく、という状況のため、周りの目が気になり、外に出られない。ひかり園に来られるようになり、同じ悩みを共有できるようになった。本人も楽しんでいようである。小児科の先生には、「活発だね。」としか言われないので、「集団健診」が大事である

・初めての子どもの双子のため、2倍手がかかり、散歩にも出られなかった。1歳半検診でキッズランドを進められたが、手伝ってくれる人がいないと準備ができない。子育て支援センターの双子の会も時間が短くて、なかなか参加できない。他の曜日にも行事があるようであるが、情報が無い。2歳8カ月くらいからようやく外に出られるようになった。

・市の広報紙等に困り感のある子どもや発達障害について掲載してほしい。

・子育て支援センターが市内の北側にない。志和池地区は公園も無かった。リサイクルプラザの関係で公園が出来るといいが、異年齢を連れて行った際に遊ばせやすいような設計にしてほしい。ラスパの遊具がよい。

・鹿児島県は療育施設の利用料金が無料である。併行通園は仕事を休んで連れて行かなければならない。母子通園や併行通園の場合、利用料金を考慮してほしい。言葉の教室について、福祉課は無料であるが、藤元病院は月800円かかる。月800円かかるだけで行かないという人もいる。

[児童発達支援関係者アンケート]

問1 貴団体の名称

--

I. 回答者	
記入者名	
連絡先	TEL : FAX : E-mail :

問2 貴団体の活動状況

2-1 貴団体で現在実施している児童発達支援に関して、対象年齢と事業内容についてご記入ください。

--

2-2 定員、1日の利用人数、障がいの種別・程度とその人数、保育所・幼稚園の併行通園児の人数についてご記入ください。

項目	内容
定員と1日の利用人数	
障がいの種別・程度とその人数	
保育所・幼稚園の併行通園児の人数	

2-3 放課後等デイサービスを実施していますか？

1. 実施している。 ⇒2-4へ進んでください。
2. 実施していない ⇒2-5へ進んでください。

2-4 放課後等デイサービスの利用人数・年齢・待機状況についてお答えください。

項目	内容
利用人数	
年齢	
待機状況	

2-5 職員の職種、雇用形態（正規、非正規）ごとの人数についてお答えください。

職種	正規雇用	非正規雇用	合計

問3 貴団体の子育て支援活動の取り組みに関して

3-1 問2の活動において、どのような事が課題となっていますか？

1. 障がいの特性に応じた対応
2. 職員の知識・経験
3. 職員の人数・職種
4. スペース
5. 本人・保護者との関係構築
6. 学校・保育所・幼稚園・保健師等との関係構築
7. 運営費
8. 利用の仕組み・利用料の問題
9. その他

3-2 3-1の課題を解決するために必要な事は何だと思えますか？

1. 研修等による人材育成
2. 行政も交えた関係諸機関との発達支援システム・ネットワーク作り（そのための定期的な会議の開催）
3. 相談支援も含め、利用の仕組みを利用者の立場に立って改善する
4. 予算の増加
5. その他（ ）

3-3 貴団体の活動において他団体と連携していますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 連携している ⇒ 3-4へ進んでください。
2. 現在は連携していないが、今後は連携したいと思う ⇒ 3-4へ進んでください。
3. 今後とも連携したいとは思わない ⇒ 3-5へ進んでください。

3-4 どのような団体と連携していますか、又は連携したいですか。具体的な団体名・連携理由についてご記入ください。

問4へ

3-5 「今後とも連携したいとは思わない」のはなぜですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 自分の団体だけで十分な活動が行えるから
2. 他団体とうまく連携を取れるかどうか不安だから
3. 同じ考え、方向性を持った団体がない（又は知らない）から
4. その他（具体的に： ）

問4 都城市の子育て支援活動に関する取り組みに関して

4-1 都城市の子育て支援活動（子育て・発達等各種相談業務、乳幼児健診、子育て支援センター等市が実施している施策及びその情報発信）について、どう感じていますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 満足している ⇒ 4-3へ進んでください。
2. ほぼ満足している ⇒ 4-3へ進んでください。
3. やや不満である ⇒ 4-2へ進んでください。
4. 不満である ⇒ 4-2へ進んでください。

4-2 それはなぜですか。また市にどのようなことを改善してほしいですか。具体的にご記入ください。

4-3へ

4-3 貴団体の取り組みにおいて、市から支援してほしいことがありますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. ある ⇒ 4-4へ進んでください。
2. ない

4-4 支援してほしいことはどのようなことですか。具体的にご記入ください。

◎最後に、市の子育て支援活動に関してご意見がありましたら、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

市町村子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」に関する調査結果(平成26年4月時点)

【幼児期の教育・保育の量の見込み】

1号認定			2号認定							3号認定					
24年度実績(任意)	29年度	31年度	24年度実績(任意)	29年度	教育コース		31年度	保育コース		24年度実績(任意)	0歳		24年度実績(任意)	1・2歳	
					人	人		人	人		人	人		人	人
1,453	1,674	1,727	2,861	2,874	606	2,268	2,965	625	2,340	343	857	835	1,803	1,981	1,931

【一時預かり事業、トワイライトステイ事業、ファミリー・サポート・センター事業、病児・病後児保育事業、時間外保育事業】

24年度実績(任意)				一時預かり事業・子育て短期支援事業(トワイライトステイ)、子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業[病児・緊急対応強化事業を除く])				病児保育事業、子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業[病児・緊急対応強化事業])				子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)(就学児のみ)				時間外保育事業			
一時預かり事業	トワイライトステイ事業	ファミリー・サポート・センター事業	病児・病後児保育事業	幼稚園における在園児を対象とした一時預かり(預かり保育)		幼稚園における在園児を対象とした一時預かり(預かり保育)以外		1号認定による利用		2号認定による利用		29年度		31年度		29年度		31年度	
				人日	人日	人日	人日	人日	人日	人日	人日	人日	人日	人日	人日	人日	人日	人日	人日
4,085	0	922	1,225	4,167	4,299	1,279	1,319	46,921	46,932	4,525	4,537	1,043	1,041	1,423	1,427				

【子育て短期支援事業(ショートステイ)、地域子育て支援拠点事業、利用者支援事業、乳児家庭全戸訪問事業、養育支援訪問事業、妊婦健診】

子育て短期支援事業(ショートステイ)			地域子育て支援拠点事業			利用者支援事業		乳児家庭全戸訪問事業			養育支援訪問事業			妊婦健診		
24年度実績(任意)	29年度	31年度	24年度実績(任意)	29年度	31年度	29年度	31年度	24年度実績(任意)	29年度	31年度	24年度実績(任意)	29年度	31年度	24年度実績(任意)	29年度	31年度
人日	人日	人日	人回	人回	人回	か所	か所	人	人	人	人	人	人	人	人	人
0	168	169	27,140	39,072	38,076	1	1	1,077	1,082	1,054	40	40	40	1,674	1,681	1,638

4 今後のスケジュール

		平成25年度		平成26年度(消費税8%)				平成27年度(10月より消費税10%引き上げ)
		前半	後半	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
子ども・子育て 支援法に基づくもの	ニーズ調査	アンケート・グループヒアリング						
	計画策定(教育・保育の見込み、需要・供給量、法定13事業)	量の見込み検討 ※需要量算出⇒県との法定協議		確保方策検討 ※教育・保育施設への意向確認・県・周辺市町村との協議等	9月 量的見込み・確保 方策中間とりまとめ	パブリックコメント・県との最終調整		3月 国・県に提出 事業計画に基づく事業開始
	施設に関すること(認可・確認条例等整備)	関係者への周知	政省令作成(国)	運営基準(確認制度)等の検討 関係者との調整		9月 条例整備	教育・保育施設の確認事務 (平成27年度入所分は10月頃までに実施)	
	利用者に関すること(公定価格・利用者負担・保育の必要性の認定)		骨子案(国)	保育の必要性認定基準の検討 公定価格(5月) 保育料検討		9月 条例整備	保育の必要性の認定⇒保育利用希望の申込⇒保育園・幼稚園・認定こども園の利用調整 3月 保護者と市町村・事業所との契約 利用開始	
	管理システム導入		契約	【支給認定・確認関係】テスト導入・データ移行		運用開始		【請求審査・支払い関係】テスト運用 運用開始
次世代育成 対策推進法 に基づくもの	実績評価	実績評価						
全体	平成27年度予算への反映			主要事業入力(5月)～市長査定(8月)		平成27年度当初予算入力～査定		2月 平成27年度 予算案議 案提出
	計画策定(ライフステージ別事業計画)	ライフステージ別予算優先順位調整・検討		計画骨子案策定(関係課との協議・調)	ライフステージ別事業計画策定	9月 中間とりまとめ 計画案中	パブリックコメント最終調整 3月 国・県に提出 事業計画に基づく事業開始	